

平成30年度日本NGO連携無償資金協力署名式典

公益財団法人 国際開発救援財団

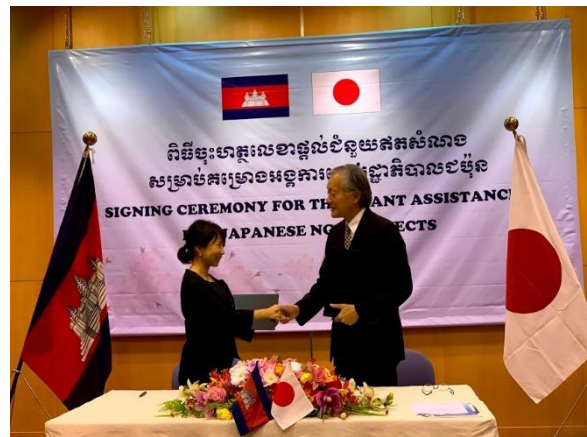
「クラチェ州における小児外科診療体制強化事業（第1年次）」

認定特定非営利活動法人 日本地雷処理を支援する会

「コンポントム州における地雷・不発弾処理に関連する総合機械処理事業（第2年次）」

平成31年2月25日（月）、平成30年度日本NGO連携無償資金協力に係る署名式典を当館多目的ホールにて執り行いました。同署名式では、堀之内秀久特命全権大使が、（公財）国際開発救援財団の南由美子カンボジア事務所所長との間で「クラチェ州における小児外科診療体制強化事業（第1年次）」（供与限度額：237,666米ドル）について、（認定特活）日本地雷処理を支援する会の末永典良現地事業統括責任者との間で「コンポントム州における地雷・不発弾処理に関連する総合機械処理事業（第2年次）」（供与限度額687,964米ドル）について、それぞれの贈与契約書に署名を行いました。

（公財）国際開発救援財団が実施する事業では、乳児死亡率及び5歳未満児死亡率が他州に比べて高いクラチェ州において、小児外科診療体制の強化を目的とした医療スタッフへの研修の実施や、患者とその家族を含む地域住民への保健教育の実施に取り組みます。同団体はプノンペン都の国立小児病院を拠点に、小児外科に携わる医療人材の育成及び診療環境の改善に20年間にわたって取り組んできた実績があり、本事業においてはその経験及び育成した人材を活用して、地方での小児外科患者の早期発見及び早期治療が可能な小児外科診療体制の構築を目指します。保健インフラの整備が遅れている当国北東部において、クラチェ州は交通の要所となっており、本事業を通じてクラチェ州病院が近隣州からも小児患者を受け入れ、広域拠点病院として機能することが期待されます。



（認定特活）日本地雷処理を支援する会が実施する事業では、コンポントム州の地雷とクラスター弾が混在する汚染地域において機械処理を行い、迅速且つ安全な処理要領をカンボジア地雷対策センター（CMA C）に技術移転します。地雷と不

発弾が混在する汚染地域での機械処理は難易度が高いとされており、本事業では日



本人専門家の指導の下、地雷除去機やクラスター子弾除去機、ドローン等を用いた総合機械処理要領の策定及び現場での運用を行います。本事業を通じて、地雷・不発弾被害ゼロを目指して活動するCMA Cの取組を後押しするとともに、汚染地域の安全化によって耕作地の拡大や地域への投資の促進に繋がることが期待されます。

式典では、堀之内大使がスピーチを行い、今回の支援が対象地域の住民に直接裨益し、カンボジアと日本の更なる友好促進につながることを願う旨述べるとともに、（公財）国際開発救援財団の南由美子カンボジア事務所所長と（認定特活）日本地雷処理を支援する会の末永典良現地事業統括責任者が、日本国民及び政府への感謝の意を表明するとともに、着実に事業を推進していくことを約束しました。